

令和6年度 学校関係者評価報告書

報告・評価及び成果・課題

◆アンケート結果からの報告

<児童生徒アンケートより>

○よかった点として、肯定的評価が90%を超えている項目

【学校生活全体】

あいさつを自分からしている (92%)

返事やその場に応じた言葉遣いができている (90%)

先生は困ったことがあったら相談に応じてくれる (91%)

【学習について】

授業中、友だちや先生の話をしっかり聞いている (93%)

聞く人に分かるように、はっきりと話している (91%)

学習したことがよく分かる (91%)

先生はよく分かるように教えてくれる (95%)

【生活について】

学校・学級には仲の良い友だちがいる (93%)

困っている友だちがいたら助けている (97%)

学校のきまりや約束事をよく守っている (93%)

委員会・係の仕事を熱心に取り組んでいる (94%)

【家庭生活について】

なし

【その他】

周りの人とつながり、高め合おうとしている (91%)

部活動に積極的に取り組んでいる (97%)

<保護者アンケート結果より>

○良かった点として、保護者アンケートで肯定的回答が9割を超える項目

子どもは学校行事に楽しんで積極的に参加している (96%)

子どもの服装・頭髪など身だしなみが整っている (91%)

自分は学校からの文書など必ず読んでいる (91%)

自分は参観日・懇談へ必ず出るようにしている (99%)

P T A活動には積極的に参加している (97%)

○検討事項および改善点

肯定的回答が7割を下回る課題となる項目

人権教育への取組 (68%)

児童についての適切な相談対応 (66%)

いじめの早期発見・対応 (24%)

子どもは学習内容を見に付けている (69%)

子どもは授業が分かりやすいと言う (65%)

子どもは言葉遣いがよい (56%)

ハッピーすこやか週間への家庭協力 (65%)

人権教育への取組のうちの24%、いじめの早期発見・対応の50%は「E:分からない」となっており、保護者の立場からでは取組の実態が分からないため、肯定的回答が少なくなっていると思われる。個別に連携・共有する必要があるケースは情報共有を行っているが、懇談会などの全体の間でも現状を適切に伝えたり教育相談について発信したりする必要があると感じた。また、ハッピーすこやか週間への家庭協力(65%)は、昨年度64%一昨年度は72%で、一昨年度から大きく下回ってきている。今年度も、朝ご飯4品目に挑戦する取組をめざして働きかけたが、3週間の継続は難しいという保護者の意見もあった。学校保健委員会での助言の発信やこども園との連携で、継続的に取り組むことが大切。

○児童生徒の回答結果と保護者の回答結果に大きく乖離が見られるものがあることが心配。

返事やその場に応じた言葉遣いができている (子90%) ⇔ (保護者56%)

宿題(家庭学習)の習慣が身に付いている (子84%) ⇔ (保護者70%)

	学習したことがよくわかる (子 91%) ⇔ (保護者 69%) 先生はよく分かるように教えてくれる (子 95%) ⇔ (保護者 65%) 特に、言葉遣いの項目は児童生徒と保護者の回答に大きく乖離があった。子どもはできていると思っているが、保護者としては不十分という思いがうかがえる。教員のアンケート結果でも、挨拶、返事、宿題、読書は気になる結果であった。 ◆今年度の学校の取組から - 部活動での活躍は子どもたちの自信に繋がる。特に3学期は若桜学園の特徴であるスキー部が全国中学校スキー大会に11人が出場と活躍。顧問だけでなく、地域の方の協力、町の支援がありがたい。学校ホームページでの紹介を全中期間は特に多くの方が閲覧された。 - 若桜駅と台湾内湾駅との姉妹駅協定をきっかけに、若桜町と台湾の国際教育文化交流として小学生の交流が行われた。今年度は1月に学園で迎え、5、6年生を中心に交流した。今後も町の方針に基づき、互いに行き来し、国際文化交流を行う予定。子どもたちが外国語や外国の文化に興味を持ち、コミュニケーションを図ることのよさを感じられる機会となることを願う。 6年生は総合的な学習のまとめとして子どもシンポジウムを行った。若桜町をより良くするための提案を1年間かけて少しずつ準備してきた。参加された多くの方から質問や意見をもらい、とても良い経験となった。若桜町や教育委員会に協力していただき、ありがたい。9年生は町内で働かれている事業者の方と連携・協力して若桜をアピールする商品を提案・販売したり、5年生は若桜で店を開き働く方から若桜への思いや願いを聞いたりした。ふるさとに誇りと自信を持ち、予測困難な課題を主体的に乗り越えていくなど、自身の将来を切り拓く基となる力を繰り返し学び、地域との関わりの中で育ててもらっている。
意見・学校への要望等	<意見交換> - アンケート項目「小中一貫校のよさに気づくことがある」は、一貫校になった当初は必要だったのだろう。今の子どもたちはそれしか知らないの必要性を検討してもいいのかも知れない。 「読書をよくしている」が低い結果。高校入試ではどの教科でも読む量が多く、対応ができない。学校図書館の利用は学年が上がるほど減少。わかさ生涯学習情報館は開館20周年。親も本をあまり読まない世代かもしれないが親子で情報館とも繋がってほしい。学校司書の配置がやはり必要と感じるなら、ハローワークで求人募集という方法もあるのではないかな。 - 地域での体験活動では、キャンプや調理など積極的に取り組む子どもが多い。時間の使い方やスケジュール感覚、自分でできるかどうかの判断は難しいと感じる面がある。若桜の子どもたちはいろいろな経験をする機会に恵まれている。異年齢活動も含めて、小さい子どもとの関わる機会も多い。 - 部活動は少人数だが、どの部もよく頑張っている。 - 縦割りの遠足では、氷ノ山でのカレー作りもよいが、鬼ヶ城に上がる機会もあるとよい。町外からの登山者は多いが、地元の子どもは知らない。学校の裏山のスキー場を知らない子どもも多いだろう。昔の若桜小学校では、広留野から大鹿滝、中江の一本杉など若桜の名所に行っていた。親も行ったことがないようなところがあるので、親子で若桜の良さをもっと知るといいと思う。